

待たぬ月日は経ちやすい

リスク・カウンセラー奮闘記

リスクカウンセラーの仕事は、主には経営者の再生支援をすることですが、そのほかに親族間のゴタゴタや不動産のトラブルなどのご相談があります。

前者のご相談と後者のご相談とでは取り組み方がかなり変わってきます。前者の経営者の再生支援については俊敏な対応、豊富で正確な情報、客観的な視点で「スクリーニング」することがポイントなのです。

その為には、日頃から幅広い専門家とのネットワークを持っていることが大切だと考えています。一つの問題に対してほぼ同時にそれぞれの専門家の視点から問題点を指摘し解決の提案をしていただくことになるので、かなり難易度の高い問題でも解決することができるようになります。再生支援の場合は、時間を追う毎にさまざまな条件が変化していくので、どちらかと云えば時間との戦いであって、限られた時間の中でいかにして問題点を探り対処してゆくかが勝負どころです。

一方、親族間のゴタゴタのような、これまで永い時間の中で滲み出てきた問題は、相談者の心の奥底にじっと堪えてきた思いの丈をたぷりと時間を掛けながら吐き出していたいただき、まずは溜まった心の疲れを癒す時間が大切だと考えています。

何度も…何度も…同じような話を耳を傾けながら…せかせせずに…ひたすらお話を聴いています。

「～～時の流れに身を任せ～～」なんて歌がありましたが、時間が経っても本質的な部分が変わることがない問題を抱えた相談ごとには、その相談者と時の流れを楽しむぐらいの気持ちでいることの方が、まるで雪解けをみるように「じわ～っ」と解決の手がかりが見えてきます。

問題を短兵急に探し出して目の前に並べ、短期間に解決しようとするようなことはかえって心のしこりが大きくなっていくように感じます。

むしろ、ゆっくりと時間をかけながら問題に対する意識を遠いところへ追いやってからのの方が、問題解決後のもやもやが残らないで済むようです。

挨拶は時の氏神と言われて…



リスク・カウンセラーは…企業に対しては経営再生支援のように、まず経営者と面談し、資料などを基にして「スクリーニング」をして経営者と一体となって再生できるかどうかを見極

め一気に問題の解決に当たっています。この場合はその企業内の問題が殆どで、あくまでも会社と経営者が主体です。

親族間の問題や不動産のトラブルの場合にはどうでしょう。全部がそうとは言いきれませんが、相談者自身の問題として片付けられるものより、対象となる相手があって、その相手方と何らかの手段によって接触し相手の考えを確認できないと問題の解決にはつながらないと云った場面が多々あります。

風化しかけたような永い年月が経過してきた中で、いつとはなしに風の噂で相手方の情報が耳に入ってきて一人イライラしていたり、遠い昔にあった親の代からの遺恨をそのまま引きずっていたり…それはそれは数多くあります。

相談者にとっては、永年にわたり心の奥底にくすぶっていたようなわだかまりは、そのまま簡単に消せるものではないのです。

リスク・カウンセラーは時としてその仲立ちをして問題の解決に当たることがあります。言った本人が忘れていたような「些細なひと言」がこだわりとなっていたり、権利関係が微妙に入り組んでいることをお互いが言い出せずについて、片方がそのきっかけの一步を踏み出すことによって一気に問題が解決することが多いものです。



秋の七草、ススキを写真を撮りたいとあちこちと探し歩いて湯島天神の境内に辿り着きホッと一休み。同じように羽を休めているトンボと目が合ってしまった。

トラブルにもいろいろあってすべてが弁護士のように法的に問題を解決するといったことばかりではないのです。

相談しやすい人に胸襟を開いて悩みを軽くなると…不思議なことに…今まで許せなかったものが許せるようになる…、「挨拶は時の氏神ですね…相談してよかった…」と相談者に感謝され「いえ、いえ…」となんとなくそれなりに応えていました。後日ふとしたことでこの「挨拶」とは「仲裁人」のことを意味するのだと知って急に気恥ずかしさが…。

最近、特に感じることは、疲れることも辛いことも多いけど、リスク・カウンセラーをしていてよかったと感じられるようになってきました。

日頃、私を支えてくださる皆さんに感謝感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございます。



東京国立近代美術館 工芸館(旧近衛卿邸司令部庁舎)として重要文化財に指定)の近くには、秋を知らせる房状になった薄紫色の「葛」の花が咲いていました。